

第 11 回未来エネルギーフォーラムシンポジウム～国際リニアコライダー(ILC)計画のもたらすもの～

開催日時：平成 27 年 3 月 2 日（月）

場所：早稲田大学西早稲田キャンパス 63 号館

プログラム：

第一部

「次世代加速器 ILC の役割と実現へ向けた状況」

東京大学大学院理学系研究科教授・素粒子物理国際研究センター長 駒宮 幸男

「ILC と地域の将来～地方創生を中心として～」

日本創成会議座長 増田 寛也

「加速器（放射線）が我々の生活に果す役割り」

日本アイソトープ協会専務理事 柴田 徳思

第二部

「超伝導加速空洞技術とその応用」

三菱重工業(株) 仙入克也

「電子管技術とその応用」

東芝電子管デバイス(株) 湯城 磨

「検出技術とその応用」

(株)リガク 虎谷 秀穂

「超伝導電磁石技術とその応用」

三菱電機(株) 山本 俊二

平成 27 年 3 月 2 日(月)、早稲田大学西早稲田キャンパスで「第 11 回未来エネルギーフォーラムシンポジウム～国際リニアコライダー(ILC)計画のもたらすもの～」を、早稲田大学および東京都市大学共同大学院共同原子力専攻との共催で開催した。大学関係者、研究者と産業界から、約 250 名の参加があった。

このシンポジウムは、エネルギー分野における次世代技術の教育・研究・開発の促進を図ることを目的に、早稲田大学と東京都市大学の連携を中心に大学、研究開発機関、企業、官公庁などの連携で行われているもので、今回が開催 11 回目となる。

先端加速器や放射線利用は原子力分野において発電と並ぶ大きな柱となっている。今回のシンポジウムでは先端加速器の代表例である ILC 計画を中心テーマとし、その概要、応用を含め、ILC 計画によって日本にもたらされる効果を様々な観点から各分

野の第一人者による講演を通じて、理解を深めることを目的に開催された。

プログラムは二部構成になっており、第一部は3つの講演が行われた。

東京大学の駒宮幸男氏は、「次世代加速器 ILC の役割と実現へ向けた状況」と題した講演で、ILC 計画の現状と意義について解説した。

続いて、増田寛也氏による、ILC と地方創生の関わりについての講演が行われた。増田氏は、日本の人口の減少傾向をくいとめるためのカギとなる、地方の活性化において、ILC に期待される役割について解説した。

第一部の最後は、日本アイソトープ協会の柴田徳思氏による、加速器（放射線）が生活に果たす役割に関する講演が行われ、工業、農業、医療の分野で浸透している加速器・放射線の技術について、事例や経済規模も交えて分かりやすい解説が行われた。

第二部では、産業界と加速器や検出器の関わりについて、実際に業務携わっている産業界の専門家から、最前線の活動について講演があった。ILC と深く関わる超伝導加速器や電子管の開発、MRI 設備として医療現場には欠かせない超伝導電磁石、様々な用途に応用される測定器の技術等、普段耳慣れない「加速器」の技術の社会や生活との深い関わりが紹介された。